

## 急性期の統合失調症において 3 週間までの抗精神病薬の短期中止は症状を悪化させるか？ プラセボ・ウォッシュアウトのデータのプール解析

竹内 啓善<sup>1</sup>、渡部 恵<sup>2</sup>

1 慶應義塾大学医学部 精神・神経科学教室

2 住友ファーマ株式会社データサイエンス部

[Psychiatry and Clinical Neurosciences Volume 77, Issue 6, June 2023, Pages 338-344]

【目的】本研究は、急性期の統合失調症において、プラセボ・ウォッシュアウト期を含む 3 週間までの抗精神病薬の短期中止時の症状変化について検討することを目的とした。

【方法】統合失調症の急性増悪の患者を対象にルラシドンとプラセボを比較した 3 つの二重盲検無作為化比較試験のデータを解析した。症状の重症度は、陽性・陰性症状評価尺度 Positive and Negative Syndrome (PANSS) 総スコアと臨床全般印象-重症度 Clinical Global Impression-Severity scale (CGI-S) スコアで評価した。抗精神病薬中止期前後のスコアを比較し、スコア変化に関連する因子を検討した。

【結果】試験に参加した 2154 名のうち、抗精神病薬単剤治療を受け、抗精神病薬中止期を完了した 600 名が解析に含まれた。クロザピンを投与された患者はいなかった。中止期の平均期間は  $5.9 \pm 2.5$  日であった。PANSS 総スコアおよび CGI-S スコアは、この期間でそれぞれ  $94.0 \pm 9.5$  から  $95.4 \pm 10.5$  ( $P < 0.001$ ) および  $4.9 \pm 0.6$  から  $4.9 \pm 0.7$  ( $P = 0.041$ ) に有意に変化したが、絶対的な差はわずかであった。スコアの変化は、前抗精神病薬の種類や用量、抗精神病薬中止の期間や方法(急速 対 緩徐)とは関連しなかった。

【結論】統合失調症の急性増悪の患者において、非クロザピン抗精神病薬を 3 週間まで短期中止しても、臨床的に意義のある程度まで症状が悪化しない可能性があり、これは抗精神病薬効果は中止後少なくとも数日は持続することを示唆している。この知見は、抗精神病薬の 1 日 1 回投与、他の抗精神病薬に切り替える際の抗精神病薬の急速中止を支持するものである。